

# 調剤薬局におけるキャラバンメイト 導入の意味と今後の展望について

(株) 関西メディコ サン薬局郡山店 安田 光

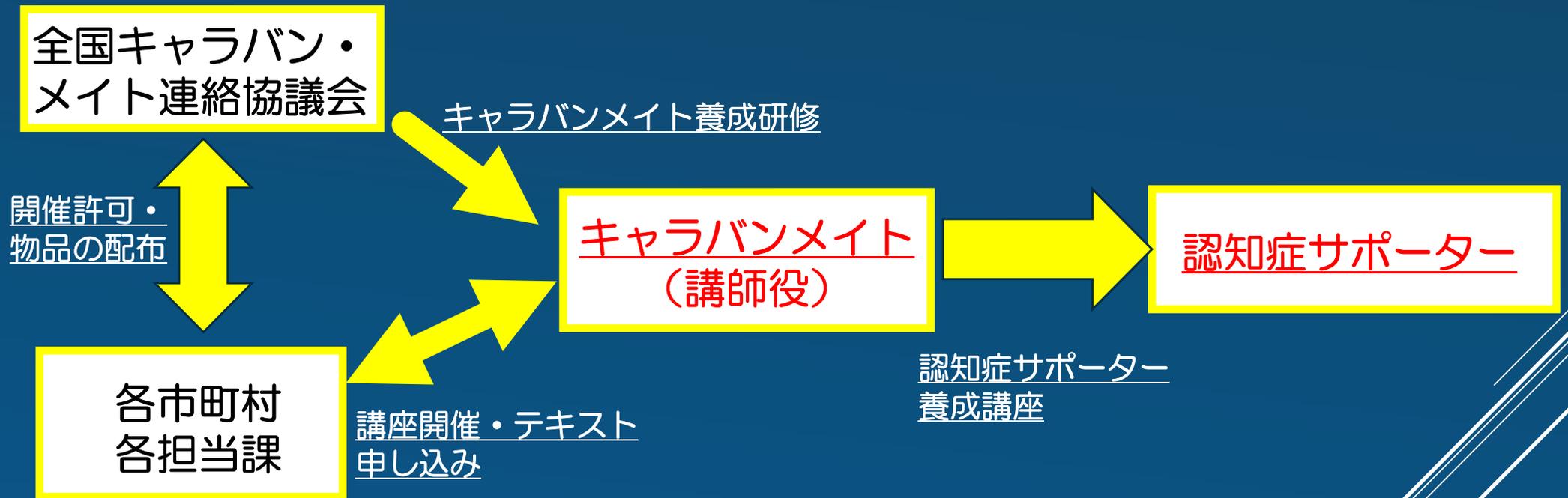
## 今回の目的

現在、**認知症の問題は今後増加していく在宅医療とも関連**しており、**地域医療を担う調剤薬局でも重要な問題の1つ**となっている。

薬局を相談窓口として充実させるために**社員教育として認知症サポーターの導入**を決定した。

今回、外部講師ではなく**社内に講師役であるキャラバンメイトを養成し活動することで、導入時の実情と活動の実績および今後の展望**について検討を行うこととした。

# キャラバンメイトとは？



今回、社内で認知症サポーター養成講座を開催しサポーターを増やしつつ、キャラバンメイトの体験、意見を報告する。

# 講座風景



# 講座資料



講座に使用している資料は、全国キャラバン・メイト連絡協議会発行の認知症サポーター養成講座標準教材「認知症を学び地域を支えよう」を使用。

認知症サポーターキャラバンDVDを使用

また、上記教材を基に独自にパワーポイント資料を作成し教材とした。

今回は全43枚のスライドより3枚程度抜粋する。

# 認知症サポーターの現状

• 認知症サポーター 平成26年6月30日

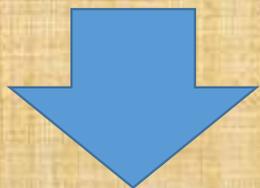
5,172,225人(500万人を突破！！)

でも、奈良県では…

認知症サポーター数 35,450人、キャラバンメイト数784人

メイト+サポーター1人当たりの担当高齢者人口

全国6,4人に対して…→奈良県10,1人 全国ワースト3



奈良県は認知症サポーターの認知度が低い！！

# 認知症サポーターとは？

- 認知症サポーターとは「**なにか**」特別なことをする人ではありません。
- まず、認知症を正しく理解し、**偏見を持たず**、認知症の人や家族に対して**温かい目で見守ることがスタート**です。
- 認知症を理解し、**認知症の人やその家族の「応援者」**です。



全国キャラバン・メイト連絡協議会より引用

## 現場で考え、実践しよう！！

他にもこんなこと現場であったらどうしますか？

- ・お会計の時に反応がにぶい。小銭を出す時にモタモタしている。
- ・お釣りを渡しても「お釣りもらってない」と言われる。
- ・薬がないという問い合わせが多い。(飲み間違いを繰り返す)
- ・いつも怒鳴り散らすが、言っていることが支離滅裂
- ・説明してもすぐ忘れて同じことを聞いてくる
- ・付き添いの家族が、本人を叱っている
- ・付き添いの家族が、本人から罵声を浴びせられて落ち込んでいる

皆さんならどう対応すればうまくいくと思いますか？

## 【結果】 認知症サポーター養成講座活動実績

開催回数	講義時間	日時	人数（社員）	人数（その他）	備考	計
第1回	60分	2014/10/16	33名	2名	その他 実務実習生	35名
第2回	90分	2015/5/7	11名		新入社員	11名
第3回	90分+ワーク ショップ60 分)	2015/8/20	27名	17名	その他 インターン シップ薬学 生	44名
			71名 (全475人中)	19名		90名

## 【結果】講師アンケート

キャラバンメイト養成講座の参加メンバー96名のうち、**調剤薬局の薬剤師は私1人**だけで、あとは地域包括センターを中心として、介護・福祉の職員、病院の職員等、老人ホームと実際に介護の現場に関連している人ばかりだった。

地域の医療や介護の場では**薬剤師の役割への認識がまだ希薄**であることが分かった。

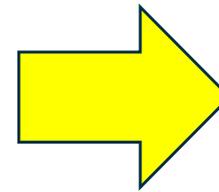
薬局の中で薬剤師として関わり続けることも手段の1つだが、もっと多くの人に認知症そのものと、**在宅等の関連する分野の方たちに薬剤師の職域の認識**をしてもらい、協力体制がとれるようにしたいと感じた。

## 【結果】講師アンケート(その他)

### 講座を開催するにあたって苦労したこと

本来キャラバンメイトは各市町村に登録しており、その地域での活動を推奨されている。

しかし、メイトの所属はA市だが、開催場所はB市に住所がある会議室で、受講する人間はC県全体といった複雑な場合、各市町村によって対応が違い、結果的に開催してくれる所を探すために電話をかけながら探すことになった。



しかし、講座開催経験の少ないB市から、担当者と地域包括支援センターから講座を見学していただけるといふ申し出があった。

## 【結果】受講者感想



認知症については知識としては知っていたが、認知症サポーターという存在は初めて知った。実際に起こった認知症患者とのトラブルを紹介されたときは、やるせなく、悲しい気持ちになった。

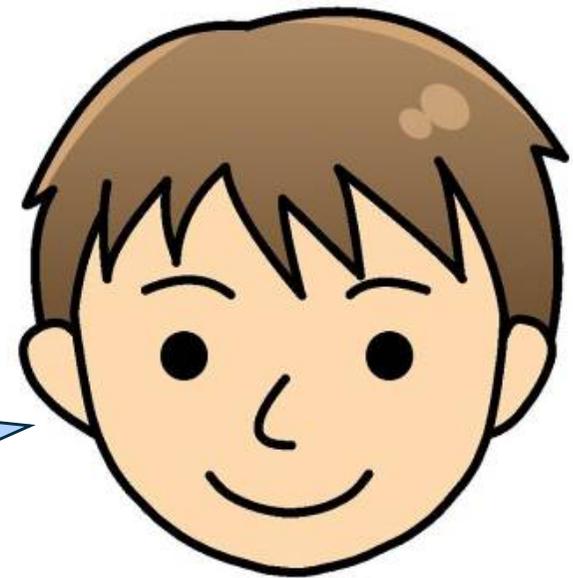
薬局の現場で起きた過去の事例を挙げながら講義があったので分かりやすかった。現場での対応は難しいが、実際に役立ってほしいと思う。



## 【結果】受講者感想



ワークショップでは、実際にあった例について、現場で働いている薬剤師の方と直接意見交換ができ、良い経験となった。



大学では学ぶことのできなかった認知症の患者にどう対応すればいいのかということ、自分で考えるきっかけとなった。

## 【考察①】

社内にキャラバンメイトを育成することで、社員教育の1つとしてスムーズに認知症サポーター養成講座を行うことが出来る。

これにより社内講習、新人研修を通して順調にサポーター数を増やすことができ、社内にとどまらず実務実習生やインターンシップ等への研修の場を提供することができた。

社員が認知症サポーターになることで、薬局の窓口で認知症患者及び介護者からの相談を受けても、地域包括支援センターや各市町村の窓口の方などの他業種の方たちとも連携を取るという判断ができる。

また、必要なら在宅医療も含めてよりよい検討やケアにつなぐことができ、選択肢の幅を増やすことが出来る。

## 【考察②】

今後社内だけではなく、健康フェア等のイベントを開催し地域の方たちに対してサポーター養成講座を開くことも計画しており、地域密着型の調剤薬局として地域の方達への貢献を行えると考えている。

2015年に新設された認知症研修認定薬剤師への認定条件の中に「認知症サポーター」があり、その取得条件を満たすことが容易である。

ご清聴ありがとうございました

(株) 関西メディコ サン薬局郡山店 安田 光

A decorative graphic consisting of several parallel white lines of varying lengths, slanted upwards from left to right, located in the bottom right corner of the slide.